

編集／発行●山梨県総合農業技術センター
 住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105
 電話●0551-28-2496 Fax.0551-28-4909
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html>
 E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



●山梨1号「ふじ紫(ゆかり)」



●山梨2号「ひめか」



●山梨3号「優(ゆう)風(なぎ)」

県育成小型コショウランの商品化に向けた取り組み



●検討会の様子

New Mouth orchid

「総合技術普及センター」

総合技術普及センターでは、手のひらサイズのコショウランを開発し、今年度「山梨1号」「山梨2号」「山梨3号」の3品種が品種登録されました。生産団体の県花き園芸組合連合会(飯田裕彦会長)が県の品種利用許可を得、同連合会に加盟する生産者約10軒が栽培を予定しており、この小型コショウランを魅力ある商品とするため、生産者が一丸となり愛称やパッケージ等の検討を行っています。

愛称は県立農林高校生徒に募集し、138人から計724点を応募。審査の結果、1号が「ふじ紫(ゆかり)」、2号が「ひめか」、3号が「優(ゆう)風(なぎ)」と決まりました。現在、鉢やラベルデザインを商品化に向けて検討しています。

早ければ来年の夏には出荷がスタート。普及部では関係機関や生産者とともに栽培方法や仕立て方法を検討し、県育成小型コショウランの魅力ある商品づくりを進め、産地化を図っていきます。

普及活動第三者評価委員会を開催



●評価委員会の様子



●現地調査の様子

各普及センターでは、農家等に対して技術や経営改善などの普及活動を展開しています。本評価委員会は、県民に分かり易く、活動の内容が理解される普及指導活動を構築していくため、普及指導活動を幅広い視点から客観的に外部の方に評価して頂き、より効率的、効果的な普及活動を展開することを目的に実施してきました。

実施にあたっては、報道機関や農業団体、生産者、消費者団体等の代表者を委員に委嘱し、活動の課題、内容、方法などの説明や現地調査を行いました。

本年度は、平成22年度の活動の中から、果樹技術普及センター、峡東地域普及センター、富士・東部地域普及センターの活動課題の評価を受けました。

評価の詳細につきましては、総合技術普及センターのホームページをご覧ください。次年度も引き続き開催していきます。

効率的な病害虫防除に向けた取り組み

「果樹技術普及センター」



●モモハモグリガ検討会



●防除暦検討会



近年、温暖化の影響などにより、特定の病害虫が大量発生し、従来と異なる時期の発生を示すことが多くなってきました。

このため、果樹技術普及センターでは、病害虫防除指導を的確かつ効率的に行うため、果樹試験場の病害虫担当、病害虫防除所、主要JAと連携し、発生消長に基づき、対策資料を作成し、指導を行ってきました。

特に、近年問題となっているブドウ主要病害のべと病、晚腐病については、効率的かつ安定的な防除体系を確立するため、主産地に実証展示ほを設置して、農薬の効果確認や防除対策の実証を行ってきました。

また、生育期の重点防除時期には、研修会・講習会を始め、CATVやホームページを活用し、きめ細やかな指導を行ってきました。

平成23年10月12日、17日に、平成24年度版果樹病害虫防除暦の編成会議が開催され、果樹技術普及センターからは、各地域担当者が出席しました。この日編成された防除暦は、12月中旬に栽培農家に配布されました。

果樹王国山梨の安定した果実生産のため、今後も効率的な病害虫防除に取り組めます。

損害を補てんし農家経営を守る!

果樹共済へのご加入をお勧めします。



本年も春先の低温による「スモモ」の凍霜害や大雨による「ブドウ」の玉割れ・腐敗果の発生などの被害が広範囲に発生し、園地によっては甚大な被害を受けました。また、近年は局地的な突風や降ひょうなどの災害が多くなっており、本年も笛吹市を中心に突風や降ひょうによる被害が発生しています。

果樹共済はこうした災害による減収を補てんし、農家の経営を守る国の災害補償制度です。現在、NOSAI(農業共済組合)では平成24年産の特定危険方式(暴風、ひょう、凍霜害に限定)と総合短縮方式の加入推進を行っています。頻発する気象災害に備え、果樹共済へのご加入をお勧めします。



NOSAI山梨中央 TEL.055(266)4411
 NOSAI峡中・南部 TEL.055(282)0443
 NOSAI北巨摩 TEL.0551(23)1111
 NOSAI富士 TEL.0554(45)6611

●詳しくは、お近くのNOSAI(農業共済組合)までお問い合わせください。



RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI 2011

やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告



●栽培実証ほの調査



●実証農家へのアドバイス

直売所を核とした地産地消の推進

「中北地域普及センター」

農産物直売所は、地域の地産地消の推進や地域農産物を活かした農村女性の企業活動の場として、県内各地域に整備されています。

中北地域には、県下直売所数の約40%、販売総額では60%を占め、管内各市町において直売所を核とした地産地消の取り組みが行われています。

中北地域普及センターでは、今年度、JAこまの管内の直売所出荷組織を重点支援対象として、JAと連携し、直売所への農産物安定供給を図るため、栽培管理講習会や農薬適正使用講習会の開催支援を行っています。また、出荷品目・数量が減少する冬春期間の新規品目導入（野菜3品目、花き1品目）や出荷期間拡大を図るため、栽培実証ほを設置し、実証農家へのアドバイス及び調査を行っています。

今後は、栽培講習会等を通じて、実証成果の情報提供を行い、農産物の周年安定供給の推進や運営体制強化に向けた支援に取り組んでいきます。



●真剣に聞き入る基礎講座（入門コース）



●きめ細かな複式簿記演習（フォローアップコース）

中核的な農業経営者を 目指して!!

「峡東地域普及センター」

昨今、農家が単なる農産物の生産だけでなく、加工・販売まで取り組む6次産業化などが注目されている中、これからの農業経営では農家の経営者としての視点が求められています。

このような中、峡東地域普及センターでは県農業会議と協力し、複式簿記や農業簿記ソフトの操作方法について学習し、青色申告書の作成を通しながら、自らの農業経営を客観的な数字で把握し、今後の経営の改善・発展に活かしてもらうことを目的に、峡東地域経営改善研修会を開催しています。

複式簿記や農業簿記についての基本的な内容を学習していく「入門コース」と、実際に青色申告の作成や農業経営改善計画の作成など実践的な内容に取り組む「フォローアップコース」があり、今年度は10月～3月まで計15回の開催を予定しています。毎年両コース併せて50名程度が受講しており、受講者も若手の方や女性など、年齢性別問わず様々です。

ソリマチ（株）から講師を招き、基本的な学習から応用的実践まで、講義や実習など熱心に学習しています。今後は農家が「経営者」としてステップアップしていけるように、ひいては中核的な農業経営者となるように支援を続けていきます。

あけぼの大豆の枝豆収穫体験の実施拡大

「峡南地域普及センター」



●手打沢会場の様子

●左・飯富会場の様子
●右・下山会場の様子

峡南地域普及センターでは、都市農村交流の促進の一環として、「あけぼの大豆」の枝豆収穫体験の実施を支援しています。「あけぼの大豆」は身延町の特産として味噌や豆腐に加工され好評を博しているとともに、枝豆として食べても美味しいことから、枝豆の収穫期である10月には町内の直売所や市場に出荷されています。

「あけぼの大豆」を広くPRするため、近年、身延町内にもいくつかの農業生産法人等が誕生し、地域農業の担い手として活動しており、あけぼの大豆の栽培にも取り組んでいることから、今年度は身延町役場が主となり調整を行ない、10月の週末毎に6カ所で枝豆の収穫体験を開催することができました。今後は、今年度の実施結果を基に来年度の実施に向け検討を行い、あけぼの大豆の振興を図っていきます。



経営改善計画の達成で健全な畜産経営

経営改善計画の進捗状況の 確認を行いましょ

「畜産技術普及センター」

畜産技術普及センターでは、認定農業者の農業経営改善計画の達成を支援するため、関係機関と連携して経営支援について取り組んでいます。

畜産経営を行っている農業者の多くは認定農業者として経営改善に向けた取り組みを進めていると思いますが、農業経営改善計画の有効期間の終期を迎える認定農業者については、再認定を受けられるよう現状の的確な把握を行い経営改善に向け実現可能な取り組みについて検討する必要があります。経営改善計画は5年後の目標達成を計画にしますが、年度ごとに売上や所得目標を掲げるなど経営の安定化を図るためにも日頃から自らの経営内容について注視し、生産技術を含め総点検することも必要ですので、お気軽にご相談下さい。

富士山麓の野菜生産組織の活動支援

「富士・東部地域普及センター」



●スイートコーン品種検討会



●農業まつりでの横断幕の披露



●地元飲食店などの方々への富士山やさいの展示、試食会

富士山野菜生産者協議会は、富士山麓の野菜生産者が連携し合うことで、生産力強化と知名度向上を図るため設立され、昨年度から本格的に活動を始めました。活動2年目の本年度は、新たな取組みとして、スイートコーンの品種検討会や各種勉強会などを行い生産力強化を推進するとともに、地元飲食店の方々へ「富士山やさい」の魅力をアピールする展示・試食会を開催しました。また、協議会のシンボルとなるロゴマークや横断幕、のぼり旗が完成するとともに、ロゴマークのシールやパンフレットを作成しており、来年度の活動に向けて会員の意気込みはますます高まっています。当地域普及センターでは、これからも生産者や関係機関と連携しつつ、生産力や知名度の向上に向けて、組織活動の支援に携わっていきたく考えています。